

1. (Gno.1) 米国刑事法の動向の研究 (米国刑事法研究会)

代表：堤 和通

1976/06/11 (承認) 1976 年度 (開始)

【研究の目的】

1 年間のアメリカ合衆国最高裁判所の刑事判例のすべてをできるだけ正確かつ、迅速に紹介することを目的とする。過去の判例との関連を意識しつつ、具さに「動向」をわが国の読者に伝達できれば、有益であり、更にわが国法運用との比較が出来ればより望ましい。更に、米連邦議会の制定した主たる刑事法とアメリカ最高裁判所の制定する新たな刑事訴訟規則の改廃等の紹介も予定している。

【研究活動及び成果】

総括

米国最高裁判所の刑事法関連の裁判例を取り上げ、報告者の発表と質疑、コメントによりメンバー間の理解を深めた。成果は、逐次、比較法雑誌の海外法律事情として公表している。加えて、合衆国憲法第 5 修正の自己負罪拒否特権条項に関連する裁判例を紹介評釈する、『米国刑事判例の動向VIII』の次年度中の刊行に向けメンバー間で原稿を整えている。

学術雑誌

田中 優企「Davila v. Davis, 137 S.Ct. 2058 (2017)」『比較法雑誌』54 巻 1 号 259 頁 (2020 年 6 月 30 日)

川澄 真樹「Dahda v. United States, 584 U.S. __, 138 S.Ct. 1491 (2018)」『比較法雑誌』54 巻 1 号 278 頁

堤 和通「Rehaif v. United States, 588 U.S. __, 139 S.Ct. 2191 (2019)」『比較法雑誌』54 巻 2 号 195 頁 (2020 年 9 月 30 日)

吉田 有希「Garza v. Idaho, 586 U.S. __, 139 S.Ct. 738 (2019)」『比較法雑誌』54 巻 2 号 212 頁

堤 和通「Elonis v. United States, 575 U.S. __, 135 S.Ct. 2001 (2015)」『比較法雑誌』54 巻 3 号 203 頁 (2020 年 12 月 30 日)

伊比 智「Timbs v. Indiana, 586 U.S. __, 139 S.Ct. 682 (2019)」『比較法雑誌』54 巻 3 号 218 頁

口頭発表

8 月 1 日 (土) 午後 1 時 30 分～5 時 30 分 (Webex でのライブ配信)

柳川 重規「Mitchell v. Wisconsin, 588 U.S. __ (2019)」

山田 峻悠「McWilliams v. Dunn, 582 U.S. __ (2017)」

9 月 26 日 (土) 午後 1 時 30 分～5 時 30 分 (Webex でのライブ配信)

成田 秀樹「Nieves v. Bartlett, 587 U.S. __ (2019)」

川澄 真樹「Kansas v. Glover, 589 U.S. __ (2020)」

12 月 26 日 (土) 午後 1 時 30 分～4 時 (Webex でのライブ配信)

麻妻 和人「United States v. Haymond, 588 U.S. __ (2019)」